

## 第 30 回番組審議会議事録

- 1 . 開催年月日 平成 23 年 6 月 28 日(火) 午前 10 : 00 ~ 11 : 30
- 2 . 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
- 3 . 委員の出席 委員総数 10 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、井上光央、須貝昭子、  
中村 保、中 宏、  
以上 6 名
- 放送事業者側出席氏名 尾池 良行 (代表取締役)  
岡田 堅治 (取締役)  
大平麻由美 (編成課長)  
永田 純子 (編成課員)
- 4 . 議 題 1 ) 番組 「和気貴志のぐるぐる商タイム」  
2 ) 審議  
3 ) その他番組に対する意見
- 5 . 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

今回は「和気貴志のぐるぐる商タイム」を試聴いただきました。毎週火曜日午前11時から、商工会議所会員のお店や会社から生中継で、そのお店や会社がめざしていることやウリを「商タイム」という言葉に掛けてうかがっていくというコーナーです。番組のようすは、弊社発行の情報紙「まちの情報箱」や商工会議所会報にも掲載しています。「シティライフ」などにも紹介していただいたことがあります。その中で、「箕面山七日市」が催されたときの現場からの内容です。

#### (2) 審議

委員長：それでは、ご意見を順番にお伺いしたいと思います。

委員：朝の再放送を聴きました。朝聴いたほうが雰囲気がよく出ていた。お店の雰囲気も分かりました。歯切れがよいなあと思いましたが、ちょっと気になったのは、「えー」ばかり付く。黙ってはいけないと思うからだとは思いますが…。せっかくお話が合っているのに、おそらく間が空いちやいけないと思って、かならず「えー」が入っている。それが悪いとは言いませんが私としては気になって、いまのラジオの流行りかなあと。

委員長：ひとこと注意していただければよいかと思えます。貴重なご意見ありがとうございました。

委員：今回は一口に言って非常に難しかった。商店を応援しようという企画そのものは悪くないが、リスナーの立場だったら数分で切っていたと思う。市（いち）とかまつりで賑わいが欠けたら何の意味もない。放送の中では街の賑わいや市の賑わいがまったく感じられなかった。言ってみれば15分のCMをずっと聞いているみたい。七日市自体の企画・ストーリーをきちっとしないといけない。ふつう企業と放送局が関わる時はスト

ーリーみたいなものをつくるのであろうが、そういうのがなくてぶっつけでやるから大変で、賑わいのない市の中継はしんどかったというのが実感。

委員：私も同じような意見を言わせていただきます。市民活動センターでタッキーをかけているのですが、このパーソナリティの番組になると「うるさい」とか「音を小さくしてほしい」と言ってこられるかたも。年齢的には年配のかたなのですが、若いうちのスタッフの中でもあまり評判が良くない。なぜかなあ、と思って今回きかせていただいた中では、やっぱり実況していないなあというのがあった。お店の宣伝ばかりしていた。あとボキャブラリーが少ない。改めてきくと「あー」とか「えー」とか、同じ言葉を何回も繰り返して言うとか。お客さんの声を拾うということがなく、このかたの声ばかりが耳に響いてしまうというのがあるのかなあと改めて感じました。

委員：このパーソナリティは僕の好きなキャラクターなのですが、彼の悪い癖は、トークで同じ呼吸を感じてしまうから息苦しく感じてしまうところ。事前に知識を持っていたら主催者と上手くキャッチボールできていたのかなと。普段は七日市みたいなものよりは店のこだわりやウリ、自慢商品を放送しているんですよね？

事務局：そうですね。今回イベントに出ましたが、ほとんどがお店にうかがうので、お店のかたにじっくりお話を伺っている内容です。

委員：もうひとつ。スタジオで受けていたパーソナリティのフォローが弱いなと感じました。前後のフォロー、特に終わってからのフォローがもう少しテンポよく、現場のトークに合わせたようなしゃべりでバンバン整理されたら良かったかなと。

委員：七日市主催者側の説明、ほとんどの人はわかっていないのでは。わからない言葉で言ったらフォローしてあげないと聴取者としては迷惑。専門用語など知らない言葉が出てきたときに「なんですか」とちょっと尋ねるのがアナウンサーの役目だと思う。

委員：もっと周りの人の声を拾って欲しかった。

委員長：ありがとうございました。試聴した以外の番組についてですが、朝から若い人向けの音楽がかかっていることがある。朝からこの音楽か、というのをよく聞くんですよ。いろいろな聴取者がいて、若い人も年配も、男性も女性もいろいろな層のかたがおいでなので、みなさんに同じようにわかっていただくというのも大変なのですが、ひとつの偏った色だけ出していくと他の人から文句が出るし、いろんな色を出すと絞り切れないという感覚もあろうかと思いますが、多少そこは努力していただいて、時間帯とか構成の仕方、企画の仕方でも中和していただければ。その他のご意見ありませんか？

委員：では、「タッキーたんけん隊」について。6月に、牧落自治会と婦人会に協力してもらって、郷土資料館の福田館長をお招きしてまちを紹介しながら歩く、という企画を提案しています。せっかくなので、「タッキーラジオウォーク」だとか、こういったものと結びつけて企画して、自治会や婦人会を巻き込んできいてもらうということが必要じゃないか。タッキーは、聴取者にどうやってらきいてもらえる番組をつくれるのかという課題がどんどん出てこない。経営的に。聴取者の立場に立って考えないと。お客様にきいていただき、スポンサーに買っていただく、そういう番組の作り方を真剣に考えること、これは確かにタッキーだけでは大変だが、我々も「タッキーラジオウォーク」みたいなものを提案、企画していきたい。7月25日に「タッキー応援団」を設立させて「おらがタッキーの番組紹介」みたいなものもやる予定ですが、あくまでも大切なのはユーザー・聴取者。そのとこだけは外さないでほしいと思います。

委員：番組のアンケートはとっていらっやらないのですか。「あなたのききたい番組は？」など、聴取者がどういった趣向をもって番組をきいてくれるのかというのを一目で分析できる手段になるのでは。そういう仕掛けはいかがでしょうか。対象を絞り込まずに、番組の中のどこかで声をかける形をとってみては。

事務局：形は違うのですが、以前モニターは実施したことがあります。あと、市

役所の市民満足度調査の項目に「タッキーをきいているか」、きいていない人は「なぜきかないのか」、きいている人は「なぜきいているのか」という項目があります。

委員長：そういった行政の行うアンケートに乗っかるとか、モニター何人かにお願いして、ご意見をいただくとか、いつも関わっている団体にお願いしてご意見をいただくとか、いろんなやり方を試みてそれを集約して、ひとつのめやすにするのも良いかもしれません。一回試みていただけませんか。よろしくお願いします。

事務局：はい。

委員：震災をきっかけに、地域コミュニティやコミュニティ放送がメディアとして注目されている。コミュニティ放送でユーザーが何を求めているか。放送をきくことでどういった情報を得たいのか、そういった意見・要望を直接聞くことも大切だと思います。また、ホームページは私たちもよく見ていますが、「今日取材した事がもうすでに上がっている。早いなあ」と、頭が下がる。

委員：タッキーの番組で2つウリを挙げるとしたら何を挙げますか。

事務局：土曜日朝11時からの「みのたんらじお」。それと、2つに絞るのは厳しいですが朝の「モーニングタッキー」と夕方の「816 ラジオ日和」の生放送です。

委員：何が聞きたかったかというのと、一つ特徴的な「何か」をもっている番組をつくらなければ。一点主義的にすれば、あとはつながっていく。「みのたんらじお」ですが、動画配信の視聴数を3倍にしようという計画をしています。それと、逆にわれわれも「おらが推奨するタッキーの番組」を情報網で流していく。「みのたんらじお」がイチオシの番組だったら、出演者も含め、経費・人を投入してみる。そこで本当に面白ければ、公開生放送だし、ネットの配信もあるので、人が寄ってくる。これも一つの手ではないでしょうか。

委員長：私がやってほしいと思っているのは、タッキー専属のスターづくりです。  
事務局から何かお知らせはありますか。

事務局：箕面市内の 27 のグループが歌を発表された「箕面市合唱祭」を、毎週水曜日朝 11 時から放送します。2～3 グループずつで。また、7 月は公開放送に出る機会が非常に多く、7 月 10 日のお本通り商店街での「箕面 100 円商店街」、7 月 23 日の箕面駅前での納涼の夕べで公開放送します。あと、7 月 30 日・31 日は箕面まつりでときめき広場と駅前ブースでパレードの中継なども行います。

委員長：長時間どうもありがとうございました。  
これにて第 30 回番組審議委員会を閉会致します。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送  
事務所への備置  
ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 23 年 6 月 28 日

箕面 FM まちそだて株式会社      番組審議会